

中国明清白话小说对日本《雨月物语》词汇的影响

『雨月物語』の漢字表記語について

——中国白話小説の影響を探る

金灵 著



武汉大学出版社
WUHAN UNIVERSITY PRESS

中国明清白话小说对日本《雨月物語》词汇的影响

『雨月物語』の漢字表記語について

——中国白話小説の影響を探る

金灵 著



武汉大学出版社
WUHAN UNIVERSITY PRESS

图书在版编目(CIP)数据

《雨月物語》の漢字表記語について:中国白話小説の影響を探る/金
灵著. —武汉:武汉大学出版社,2008.1

ISBN 978-7-307-06033-3

I. 雨… II. 金… III. ①古典小说—文学研究—中国—明清时代
②短篇小说—文学语言—研究—日本—近代 IV. I207.41 I313.44

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2007)第 181564 号

责任编辑:王春阁 武德庆 责任校对:刘 欣 版式设计:詹锦玲

出版发行:武汉大学出版社 (430072 武昌 珞珈山)

(电子邮件:wdp4@whu.edu.cn 网址:www.wdp.com.cn)

印刷:武汉中科兴业印务有限公司

开本:720×1000 1/16 印张:14.625 字数:196千字 插页:3

版次:2008年1月第1版 2008年1月第1次印刷

ISBN 978-7-307-06033-3/I·331 定价:31.00元

版权所有,不得翻印;凡购我社的图书,如有缺页、倒页、脱页等质量问题,请与当地图书销售
部门联系调换。

I207.4/14

2008

作者简介

金灵

1983年7月毕业于武汉大学外文系日语专业，获文学学士学位。1989年底赴日留学，分别就读于东京大学、御茶水女子大学等。并曾是早稻田大学日本语研究教育中心的外国人研究员。

2003年3月毕业于东京大学人文社会系研究科日本文化研究，专攻日语日本文学(国语)，获文学硕士学位。现为上海师范大学外国语学院讲师。曾在《博览群书》、《日语学习与研究》、《日语知识》等专业期刊上发表论文数篇。



前 言

中文名：中国明清白话小说对日本《雨月物语》词汇的影响

由于日语的书写是以汉字与假名混合为主的，所以需要假名标明汉字的读音，日语称之为“傍訓”，“傍訓”有音读和训读两种。也就是说汉字基本上都有其固定的读音。一般把前者称为“汉语”而把后者称为“和语”。但是，从近世开始到明治前期，出现了很多与固定的读音不对应的汉字单词。所以为了区别于“汉语”和“和语”，称它们为“汉字单词”。最早出现这些汉字单词的便是江户时期（1603～1867）的读本（小说的一种）。为了弄清这些不同性格的汉字单词，本书对《雨月物语》这一经典读本中的汉字单词进行了考察分析。

首先，我们来看看“读本”这种文学形式是如何产生的。

根据石崎又造的研究，传入日本的汉文学大致可分为三期。第一期以以遣隋唐使为背景的从近江奈良期经过延历·弘仁到宇多天皇的宽平的200多年。第二期以京镰仓五山的禅僧等入宋元明的时代。第三期为经长崎港与中国交流的德川幕府锁国的300年。白话小说就是在第三期通过唐通事（中文口译人员）传入日本的，后又经过了翻刻、翻译、翻案（文学作品的模仿改写）三个阶段。也就是说最初翻刻的白话小说作为学习会话用的教材，不知何时被其内容所吸引，开始作为文艺作品来阅读欣赏，进而翻译成日语，读者也越来越多。到后来人们不满足于阅读，又进行“翻案”，从而产生了新的文学形式——读本。

根据大庭脩的研究，当时有以下小说传入了日本。《演義三国志》、《貫華堂第五才子書水滸傳》、《今古奇觀》、《金瓶梅》、《警世通言》、《醒世恒言》、《紅樓夢》、《三国志演義》、《儒林外史》、《西遊記》、《肉蒲團》、《拍案驚奇》、《水滸傳》、《水滸後傳》、《忠義水滸傳》、《聊齋志異》等。

而且，学习过唐话的获生徂徠（江戸中期儒学家）在〈送野生之洛序〉中谈到了当时唐话流行的盛况。

可以说在唐话（江戸时期称当时的中文为唐话）以及白话小说大流行的背景下，“读本”的出现顺应了当时读者的需求。根据長澤規矩的研究，当时曾流行有浮世绘式插图的浮世草子（小说），但是，要想普及到具有汉学素养的町人（近世日本称居住城市的商人和手工艺者为町人）阶层，有趣的插图是远远不够的，他们需要能阅读欣赏的文学作品，因此，便出现了“读本”这一新的文艺形式。

为了弄清上田秋成的用字特点，所以采用了一般认为受影响最多的中国白话小说中的例子。作者选了《水滸伝》（金聖嘆評 北京燕山出版社）、《三国演義》（岳麓書社）、《西遊記》（李卓吾評 北京燕山出版社）、《喻世明言》（足本 岳麓書社）、《警世通言》（足本 岳麓書社）、《醒世恒言》（足本 岳麓書社）、《初刻拍案驚奇》（足本 岳麓書社）、《二刻拍案驚奇》（足本 岳麓書社）八本小说来采集用例。白话小说中的例子以一篇作品中选三例为限。但也有没有或不够三个例子的情况。《雨月物語》的汉字单词的选择限定于日本近世以后开始使用的汉字单词。但是由于有左右“旁训”的只有两例，因此为了参考，并非近世以后开始使用的汉字单词如“荒唐”，以及“徒弟”，由于确实是受了白话小说的影响，所以也列入其内。另外，同一读音却用了复数的汉字单词对应的词，为了参考起见一并写上，但只对粗字的单词进行分析。

笔者以《日本国語大辞典》（初版，简称《日国》）和《漢語大詞典》

(羅竹風編, 漢語大詞典出版社, 简称《漢大》) 为依据, 确认了单词的开始使用的时间, 并且查阅了六种唐话辞典, 以便确认当时它们是否作为“唐话”而被广泛使用。

本书分为四章, 其中第一章为 7 章节, 第二章为 3 章节, 第三章为 3 章节。分别以名词、动词、副词为对象进行分析, 而第四章论述了《雨月物语》中所用到的白话小说式的描写。

通过对《雨月物语》的所有日语汉字单词的分析研究, 可以看出当时中国的白话小说曾经在日本非常流行。汉字是表意文字, 即: 有极强的视觉效果, 比表音文字更能给人留下深刻的印象。为了提高小说的表达效果, 就如现在在日本为了提高某种效果而用外来语一样, 在当时, 作家们也巧妙而娴熟地运用了人们当时还不太熟悉的中国白话(口语)。有时只是借其字形来表达与白话不同的意思。不光是词汇, 连白话小说的描写形式也在小说里随处可见。更重要的是弄清楚了一直被认为来路不明的, 现在仍在使用的被称为“熟语”的一类日语词汇其实就是中国白话小说里的词汇。从近世中期的读本到明治前期的政治小说、翻译书籍、报纸新闻, 中国白话小说的词汇经常出现。

在此, 感谢我在东京大学时的同学冈泽成俊先生(现任上海对外贸易学院日语教师)在繁忙的工作之余抽出宝贵的时间来为我审稿。并感谢上海师范大学外国语学院的大力支持和武汉大学出版社王春阁老师的鼎力相助。

金 灵

2007 年 10 月

凡 例

- 岩波書店の日本古典文学大系『上田秋成集』を使用し、『雨月物語』（剪枝畸人 勉誠社文庫 5 国立国会図書館蔵 勉誠社）とも照合する。
- 白話小説は、『水滸伝』（金聖嘆評 北京燕山出版社）、『三国演義』（岳麓書社）、『西遊記』（李卓吾評 北京燕山出版社）、『喻世明言』（足本 岳麓書社）、『警世通言』（足本 岳麓書社）、『醒世恒言』（足本 岳麓書社）、『初刻拍案驚奇』（足本 岳麓書社）、『二刻拍案驚奇』（足本 岳麓書社）に限定し、用例の引用時、それぞれ『水』『三国』『西』『喻』『警』『醒』『初刻』『二刻』の略号を用いる。なお、「白峯」「菊花の約」「浅茅が宿」「夢応の鯉魚」「佛法僧」「吉備津の釜」「蛇性の姪」「青頭巾」「貧福論」も、それぞれ「白」「菊」「浅」「夢」「佛」「吉」「蛇」「青」「貧」の略号を用いる。

また、参考に『通俗忠義水滸傳』（一冊のみ）、『通俗醒世恒言』、『通俗平妖傳』、『通俗西湖佳話』、『通俗古今奇觀』も調べる。（『近世白話小説翻訳集』第四巻・第五巻・第六巻所収 汲古書院）

- 使用する辞書類は、次のとおりである。なお、〈 〉括弧内はその略号である。

『日本国語大辞典』 初版 〈日国〉

『漢語大詞典』（羅竹風 編 漢語大詞典出版社） 〈漢大〉

2 『雨月物語』の漢字表記語について——中国白話小説の影響を探る

『唐話纂要』（享保元年刊同三年増補本『唐話辞書類集』第六集 汲古書院）
〈纂要〉

『唐音雅俗語類』（享保十一年刊本『唐話辞書類集』第六集 汲古書院）
〈雅俗〉

『俗語解』（写本大五冊長澤本『唐話辞書類集』第十集・第十一集汲古書院）
〈俗語〉

『俗語解』（桂川中良編 静嘉堂本『唐話辞書類集』第十一集 汲古書院）
〈俗語〉

『小説字彙』（秋水園主人 寛政三年大坂嵩高堂泉本八兵衛等刊本 『唐話辞書類集』第十五集 汲古書院）
〈字彙〉

『支那小説字解』（大正写本 半一冊 『唐話辞書類集』第十五集 汲古書院）
〈字解〉

はじめに

日本語の表記は漢字仮名交じり文が主流であるため、漢字（漢語）の読み方を示す傍訓があり、傍訓には音読みと訓読みの二通りがある。つまり、ほとんどの漢字（漢語）は傍訓と対応している。しかし、近世中期より明治前期にかけて、傍訓とは対応しない漢字表記語が出現した。そのきっかけは近世の読本である。これらの異なる性格を持つ漢字表記語を明らかにするために、皮切りに読本の白眉と呼ばれる『雨月物語』の漢字表記語を調査することにする。

一、白話小説の渡来及び影響

石崎又造氏（註1）によれば、日本における漢文学の流入は凡そ三期に分かれる。遣隋唐史時代を背景とする近江奈良朝から延暦・弘仁をへて宇多天皇の寛平に至る二百数十年間を第一期とし、京鎌倉五山の禅僧等の入宋元明時代が第二期であり、長崎港を通じて交通した鎖国時代徳川三百年間が第三期とされている。白話小説は第三期に長崎の唐通事によって輸入されてから、翻刻、翻訳（註2）、翻案の三つの段階を経たと考えられる。つまり、最初は翻刻して会話を学ぶテキスト（註3）として使われていたが、いつしかそのストーリーに魅了され、文芸として楽しまれるようになり、翻訳されてその読者の数が増加していた。更に、ただ読むだけに満足せず、遂に翻案して新しい文学のジャンル読本を生み出したのである。

当時、どのような小説が輸入されたか、大庭脩氏（註4）の研究によると、『演義三国志』『貫華堂第五才子書水滸傳』『今古奇観』『金瓶梅』『警世通言』『醒世恒言』『紅樓夢』『三国志演義』『儒林外史』『西遊記』『肉蒲團』『拍案驚奇』『水滸傳』『水滸後傳』『忠義水滸傳』『聊齋志異』などがある。

また、白話小説がどう使われていたかについて、中村幸彦氏（註5）は次のように述べている。

何時の程にか、唐話学習ために白話の小説の読習を指導する人々を「小説家」或いは稗官などと称することになった。

こうして唐話の流行につれて白話文学、特に白話小説を講義し、解説する人が増加すると共に、唐話を習わずして、この白話文学のみを読誦する読書家も出現する。

岡嶋冠山を始めとする唐話学者たちが編纂された唐話辞書は当時のその隆盛ぶりの一端を窺わせてくれるであろう。主な唐話辞書類は次のようになる。

1716 享保 1	岡嶋冠山『唐話纂要』刊
1724 享保 9	岡嶋冠山『唐話類纂』成立
1725 享保 10	岡嶋冠山『字海便覧』刊
1726 享保 11	岡嶋冠山『唐訳便覧』 岡嶋冠山『唐音雅俗語類』
1735 享保 20	岡嶋冠山『唐話使用』刊
1791 寛政 3	秋水園主人『小説字彙』刊
1806 文化 3	『俗語解』森島中良改編本（14 画）

通事をしていた岡嶋冠山の中国語のレベルについても、貿易の繁昌ぶりや『水滸伝』、『西遊記』をよく読まれたことも、下記の序文の中に書かれている。（下線は筆者）

唐話纂要序

唐話為要。不止曉常言以通兩情。其讀書作文。固有大關係。猶之膏於薤雉薺於蓼。苟不通之。則涉獵雖廣記聞雖多。雕章綺句。雖極精緻。而崎嶇險澁。枳口聱牙。軋軋難句。甚者。冠履倒置。者也易處。教人捧腹。世之學者。多膠舊習。以唐音為弁髦置而不講。甚矣不達也。間有學焉者。拘四聲泥宮徵。僅需其口之肖而已。夫崎陽者。其地瀕海跨唐一革。賈舶商船。舳艫相接。職譯官此。歲致千金。故其土人士。戶學人習。然超然出贅者。僅僅晨星耳。獨我友玉成子。能拔萃者也歟。玉成崎陽人也。少發大志。長來東都。其開口譚唐。揮筆譯和。恰如仙人之尸解。將凡骨庸胎。一時脫換。獨餘其衣冠。而不化也。一起一坐。一咲一笑。無不肖唐。嘗在崎陽與諸唐人。相聚譚論。其調戲謔罵。與彼絲髮不差。傍觀者。惟辨衣服。知其玉成。其技之妙。大率如此。故海內解音者。聞名嚮服。望風下型。宜乎所著南木大閤等書。與水滸西游相頡頏。使見者愛翫不已也。頃採唐語便于初學者。集為纂要。其書五卷。平生成語。無不該載。展卷閱之。則如登龍君之宮寶藏悉陳。可謂裨補學者不淺淺矣。樸嘗愛唐音。頗知要領。故於玉成之藝也。深欽其能揆玄珠。於此書也。又嘉其用心之勉焉。於是弁其首云。

享保元年歲次丙申秋九月紀府侍醫高希樸仲敦甫書迦青山學舍

さらに、唐話を勉強した徂徠は、唐話の流行ぶりについて、「送野生之洛序」註3の中で次のように述べている。

咸在華人之恆言。而宋儒塵尾性命。明士口吻雌黃。方言鄉音。往往乎在。則率皆為難字之過。

嗚呼吾之冥游崎陽者久矣哉。管子有言。思之不已。神將來助。予始之。得

崎陽人蘇山鞍生。次之。得東野籐生。籐生也者。學諸崎人石吳峯氏者也。又得摑謙野先生者以友之。亦崎人林羅山氏之甥也。是皆入其戸。闕其人。倭其衣冠。華其笑語。莫不愕眙相顧。以為六十有六州之地。所鐘何間氣以生若人焉。其學大氏主水滸西游西廂明月之類耳。鄙瑣猥褻・牛鬼蛇神。口莫擇言。唯華是效。

其文章。颯颯乎有大国之音。是皆孰若崎之為萬國大都會。而華風之所漸靡也乎。(p102)

また、読本はこういった唐話及び白話小説の大流行を背景に、当時の読者のニーズにあわせて出現したと思われる。長澤規矩也氏の研究(註6)によれば、当時浮世絵式のような挿絵のある浮世草子が流行したが、漢学の町人階級への普及は、見て楽しむものよりも、読んで味わう出版物を要求されたので、名前通り読むための本—「読本」が発生したのである。

註1 石崎又造 著 『近世日本に於ける支那俗語文学史』 弘文堂 1940年10月30日

註2 長澤規矩也著「江戸時代に於ける支那小説流行の一斑」『長澤規矩也著作集 第五卷 シナ戯曲小説の研究』所収 汲古書院 1985年2月15日

註3 「其學大鶴主水滸西游西廂明月之類耳。」(卷之十「送野生之洛序」 p101

『徂徠集 徂徠集拾遺』所収 昭和60年1月26日 編集解説 平石直昭 ペリカン社)

註4 大庭 脩 著 『江戸時代における唐船持渡書の研究』 関西大學東西学術研究所 1967年

註5 「第一章 唐話の流行と白話文学書の輸入」 『中村幸彦著述集』第七卷所収 中央公論社 1984年3月20日

註6 長澤規矩也著「小説の形態と讀者層」 『長澤規矩也著作集 第五卷 シナ戯曲小説の研究』所収 汲古書院 1985年2月15日

二、『雨月物語』の漢字表記語に関する先行研究及びその 問題点

私の調査によると、『雨月物語』の漢字表記語に関する論文は次のようになる。

山口紀子 「『雨月物語』の用字」 『日本文学』六十号 東京女子大学学会 1983 年 9 月 30 日

藁科勝之 「『雨月物語』の言葉と表記—かなと漢字」 『日本文学』5 日本文学協会編集・刊行 1984 年

藁科勝之 「『雨月物語』のチカヒとチギリ」 『文経論叢』第 27 巻第 3 号 人文社会篇Ⅻ 弘前大学人文学部 1992 年

鈴木丹士郎 「読本における漢字語の傍訓—「雨月物語」と「弓張月」を中心に—」『近代語研究』第二集 近代語学会 編 ひつじ書房 1968 年 1 月 15 日

鈴木丹士郎 「読本の漢字」『漢字講座 = 7 近世の漢字とことば』所収 佐藤喜代治 編 明治書院 1987 年 12 月 20 日

鈴木丹士郎 『雨月物語本文及び総索引』 武蔵野書院 1990 年 5 月 31 日

上記諸氏は論文の中で白話小説の影響に触れているが、具体的な白話小説の用例がなく、『雨月物語』の中に使用されているすべての漢字表記語を対象にしたのではなかったため、全体像が把握できない。そのため、今回は『雨月物語』の中に使用されているすべての漢字表記語（近世以降）を調査し、その傾向を明らかにしたい。

また、同一の傍訓に幾通りもの漢字表記語（註1）及び一つの漢字表記語に幾通りの読み方が当てられている（註2）ことも、『雨月物語』の漢字表記

語の特徴といえよう。例えば、「みとも」は下記のように「從・從者・御從・從駕」の四通りの漢字表記になっている。また、「消息」に「おとづれ・せうそこ・せうそく」の三通りの傍訓が付けられている。

- ^{みとも}從に侍りしものゝかたりしを思へば、このほとりの渡りは必怯べし。

p53L3,

- ^{みとも}從者の武士四五人ばかり右左に座をまうく。p81L10,
- ^{みとも}御從に後れたてまつりぬ p81L16,
- ^{みとも}從駕にえ出立侍らぬぞいと憂たけれ。p112L6,
- 其後船もとめて難波の方に遁れしかど、御^{せうそこ}消息しらまほしく、この御佛にたのみを懸つるに、〈略〉p111L3
- 閑に終夜のことゝもを思ひ出るに、平治の乱よりはじめて、人々の^{せうそく}消息、年月のたがひなければ、深く慎みて人にもかたり出ず。p47L1
- 〈略〉旅客の往來をだに宥さ^{おとづれ}るよし。さては^{おとづれ}消息をすべきたづきもなし。p62L5

これらの表記の特徴は決して無意味なものではなく、おそらく作者の表現意図の表れだと思うが、今回はそれに触れないことにする。

漢字は表意文字であるため、視覚に直接訴えることにより、表音文字より印象を鮮明に残すことが出来るであろう。小説の表現効果を上げるために、現在、よくカタカナ語が使われるように、当時の作家たちはそれまでに馴染みの薄かった中国の白話（口語）を巧みに使われたと思われる。時には、ただ字面のみを借りて、白話と違う意味として使われているケースも見られる。例えば、家眷（いへのこ）など。

麻生磯次氏は『江戸文学と支那文学』の中で、次のように述べている。
（下線は筆者）

文学の言語は単に符号としての役目を果たしてゐるだけではなく、特殊な表出と表示力と暗示の力をもつものであらうとする。殊に読本は「読む本」であり、而も朗々と読み上げ快適な耳触りを期待するものであるとすれば、文章の技巧的方面に意を用ひたのは当然である。〈中略〉作家は好んで色彩のある言語や思想を伴ふ言葉を選ぼうとする。〈中略〉読本はわざと煩雑な文字や難解な語句を採用してゐる。音声記載の単なる手段として漢字を使用しただけではなく、表意文字としての性能を充分に利用しようとしたのである。

単独に漢字を用ひたわけではなく、振仮名を使用することによって大衆の要求を満たし、言葉と文字との諧調によって内容をも複雑にしようとしてゐるのである。兎に角読本を鑑賞する上に、その漢字漢語の使用ぶりを看過することはできない。

本書では上田秋成の用字意識を明らかにしたいため、一番影響を受けているとされる白話小説の用例も取り上げることにする。

白話小説の用例は一つの作品から三例引くこととするが、ない場合は、満たしていない時もある。『雨月物語』の漢字表記語の選出基準は、日本で近世以降、使用され始める漢字表記語に限る。但し、「左訓と右訓が付されている漢字表記語」は二例しかないので、参考のため、「荒唐」も取り上げることにする。また、「徒弟」も明らかに、白話小説の影響を受けているため、扱うことにする。なお、複数の漢字表記がある場合、参考のため、一緒に並べるのみとし、取り扱う方を太字にする。(下線は筆者)

註1 鈴木丹士郎「読本における漢字語の傍訓―「雨月物語」と「弓張月」を中心にし」

註2 藁科勝之 「『雨月物語』のチカヒとチギリ」

目 次

凡 例	1
はじめに	1
一、白話小説の渡来及び影響	1
二、『雨月物語』の漢字表記語に関する先行研究及びその問題点	5
第一章 『雨月物語』の中で使用される名詞について	1
第一節 中国では古くから使用され、日本では近世以降、使用 され始める漢字表記語	1
一、鮮魚・鮮（あざらけき）	1
二、破屋（あれや）	3
三、令弟（おとうと）	4
四、話柄（かたりぐさ）	6
五、賢弟（けんてい）	8
六、前夜（さきのよ）	10
七、妾（しゃう）	12
八、聘礼（しるし）	15
九、小弟（せうてい）	17
十、徒弟（とてい）	19
十一、叢林・林（はやし）	22